



## ほんじつ 本日のおすすめの本⑥

# 『ハーメルンの笛ふき』

サラ&ステファン・コリン文・エロール・ル・カイン 絵

ほるぷ出版(1989年初版)

\*この本は絵本のコーナーの昔話の書棚にあります。(貸出可能)

これは、ドイツのハーメルンという町で本当にあった事件を元に作られています。

ハーメルンは美しい町でしたが、ネズミだらけの町でもありました。ネズミはどんどん増えて、小さな赤ん坊のベッドにまでもぐりこんで、足をかじってしまう始末。食べ物は当然なくなり、町はどんどん汚くなっていきます。

そこで、町長さんは、このネズミをすべて退治してくれたら、ほうびとして、大金を与えるといいます。

そこへ色とりどりの布地の服を着て、長いたて笛をぶら下げた「笛ふき男」がやってきました。「笛ふき男」は、大金をくれるならば、ネズミをすべて追い払ってみせるといいます。町長は必ず大金をほうびとして与えると約束します。

「笛ふき男」は、笛をふいてネズミたちをすべて集めると、ネズミたちを一匹残らず川の中へ落としてしまいました。

さてさて、約束を果たした「笛ふき男」は町長のところへ、ほうびをもらいに行きますが……。町長は約束をやぶり、「笛ふき男」へ何も与えませんでした。

怒った「笛ふき男」は、この町の子どもたちをすべて連れてどこかへ行ってしまうました。そして、子どもたちは二度と家に戻ってくることはありませんでした。

よんでもらうなら、

1年生から。

自分で読むなら、

3年生ぐらいから。



とっても怖いおはなしですね。

1284年6月26日のこと、このハーメルンという小さな町で、130人の子どもたちが、急にいなくなってしまったのです。

古い教会にはめこまれているステンドグラスには、事件当時の様子が描かれているそうです。そこには、派手な服を着て、手に笛をもった人物が、子どもたちに囲まれています。

笛ふき男の魔法によって子どもたちが130人も突然いなくなるなんてことは、そのあと語り継がれていく中で変わってきたことかもしれませんが、この130人の子どもたちが二度と帰ってこなかったことは事実なのです。

世界で有名なおはなしの中には、実際にあった事件をもとに、語り継がれ、少し事実とは違ったおはなしになったものも、多くあります。

絵本のむかしばなしのコーナーをチェックしてみましょう。